

要 望 書

南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について
～地域経済の活性化のために～



【令和4年10月23日】
～みなど八代フェスティバルの様子～



【令和5年4月21日】
～豪華客船クイーン・エリザベス寄港の様子～

令和5年7月

熊本県八代市
八代港整備・活用促進期成会

八代港の整備につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

港湾は、我が国の経済や国民生活を支える極めて重要な社会基盤であり、豊かで活力ある地域経済の発展には地方港湾の成長は欠かすことのできないものです。

しかしながら、感染症等の拡大に起因する世界経済及び海上物流の混乱は経済社会活動にも大きな影響を及ぼしており、八代港を含めた地方港の貿易活動もいまだ回復途上にあります。

こうした地域経済の回復を図るためには、DX等の推進による港湾及び背後立地企業の生産性向上に加え、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策による強固なサプライチェーンを構築していくことが重要であることから、今後も継続した港湾の整備・振興に係る予算の確保が必要です。

さて、現在の八代港の状況としましては、昨年一時的に隔週運航に減便していた台湾航路が、本年1月より毎週運航に戻り、TSMC (Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Limited) と日本法人との合弁会社である JASM 熊本工場への資機材輸入等も徐々に増加するなど、国内半導体の集積地として今後大きく発展を遂げる本県において、海外貿易の拠点として着実な成長を続けております。

港湾所在自治体である本市としましては、こうした半導体をめぐる千載一遇の好機を八代港の発展につなげるべく、これまでの取組に加え、脱炭素化の加速やデジタル技術の革新など市の望む八代港の将来像を描いた「八代港を核とする将来的な成長ビジョン」を本年3月に作成しました。

本年度には、当該ビジョンに基づき、新八代駅周辺の開発や新たな企業誘致用地の確保など、市独自の経済振興策にも力を入れていくこととしており、県下最大の貿易港を抱える自治体として、恵まれた物流の利便性を核としたまちづくりを進めていくこととしております。

しかしながら、物流網の要となる八代港において、依然として大型船入港時の喫水調整が生じており、今後の利用拡大を図るため

には水深14m航路の早期完成による輸送コストの削減が喫緊の課題となっています。

また、令和6年度には外港地区において県内最大級となるバイオマス発電所の稼働が予定されており、原料となる木質ペレットの増加も見込まれていることから、既存岸壁の利用調整が困難となることも想定されています。

加えて、外港地区における企業誘致用地も令和3年には完売し、港湾エリアにおける新たな用地の確保も急務となっています。

このためにも、加賀島地区への水深12m岸壁をはじめとした原木ヤードの再配置等によるふ頭再編や港湾施設の効率化は、将来を見据えた重要な取組となります。

今後、本市や県南地域はもとより、シリコンアイランド九州の国際拠点港として八代港への期待が高まる中、より一層の利用促進に向け、水深14m航路の早期完成ならびに新たな貨物・企業立地需要への対応を可能とする港湾計画の早期見直しに係る関係機関への技術的支援について、ご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 一、水深14m航路の早期完成を図ること。
- 一、加賀島地区への水深12m岸壁の早期事業化を図ること。
- 一、港湾計画の早期見直しに向けた技術的な支援を行うこと。

令和5年7月

八代市長 **中村博生**

八代港整備・活用促進期成会長 **松本喜一**